

『解説ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』』刊行あいさつ

謹啓

年々温暖化とともに、予期しない雨や曇りの日が多くなってきたように感じられます。

皆様、いかがお過ごしでしょうか。平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたび、拙著『解説ウェーバー『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』』を上梓いたしました。ウェーバーの同書についての入門的な解説書ではありますが、同時に、自分なりの解釈を示しております。皆様のご高配を乞う次第です。

拙著では、とくに二つのことを主張しています。一つは、従来の「プロ倫」テーゼ解釈は、誤りであるということ。もう一つは、「プロ倫」は新保守主義の観点で読むと、これまで見えにくかったものが見えてくる、ということです。

プロテスタンティズムの倫理は、その意図せざる結果として、資本主義の精神を生み出したといわれます。ではその背後にある論理構造は、どのようになっているのか。「プロ倫」テーゼのいわば謎を解明する、というのが拙著のモチーフになっています。

振り返りますと、小生がウェーバーを知ったのは大学の学部生のころで、内田芳明先生の講義やゼミを通してでした。約30年前になりますが、その頃に受けた知の刺激は、いまでも鮮明に思い出します。

もし内田先生がご存命でしたら、拙著をみて「橋本君、「ウェーバー」じゃなくて、「ヴェーバー」だよ、「ウ」に「点々」だよ」と指摘されるかもしれません。

それはともかく、拙著をなによりも、内田先生にささげたいと思います。内田先生、当時の小生は、ウェーバーを読んでも歯が立ちませんでした。いまようやく『プロ倫』に向き合い、生きることをいくばくか掴んだように思います。当時の小生を寛容に導いていただき、ありがとうございました。

最後になりましたが、皆様のご健康を、心よりお祈り申し上げます。

謹白

2019年7月

橋本努